

大学生の既製服購入とサイズ認識の実態について

○千葉桂子* 中村優美**

(*福島大, **日本女大)

目的 近年の20代を中心にした若年齢層の体格の向上が顕著であり、その現状に対応するために、1996年に成人男子用、97年に成人女子用の JIS衣料サイズが改正された。それにより市場では、新・旧サイズの衣服が出回ることになった。そのような状況にあり、先の改正のターゲットでもあった大学生の既製服の選択・購入の実態はどのようなであろうか。本研究では男女大学生を対象として、身体寸法やサイズに関する認識の実態を捉えることを目的とした。

方法 意識調査は質問紙を用いた集合調査法および留め置き調査法により、1998年7～10月に行った。調査対象者は首都圏在住の女子大学生90名、福島市在住の女子大学生152名および男子大学生90名であり、回収率は90.7%であった。主な調査内容は、基本属性、既製服の購入実態や自分の身体寸法やサイズ表示の認知状態についてであり、都市部と地方女子間の比較と、地方男子と女子間の比較を行った。また、メーカーの異なる女子用ジャケットのサイズ表示について、表示内容・位置等について調べた。

結果 女子の地域別比較では、服装にかける金額が都市部の方がやや多かった他は、あまり大きな差はみられなかった。各自の身体寸法に関して、設定した6項目すべてに回答できた者は都市部で50%、地方で約28%と多くはなかった。男女の比較では、女子の方が服装にかける金額が高く関心も強いといえる。近年のサイズ改正については、男子の約75%女子の約40%もが「知らなかった」と答えており、認識の低さが明らかになった。またジャケットのサイズ表示については、表示そのものが見つけられていないものがあった。